

科目	心理学基礎実験Ⅰ(心A)	単位数	1
担当教員	多田 美香里、木村 年晶、石橋 遼		
履修対象	臨床心理学科2年春学期		
目的	心理学の基礎分野の題材をもとに簡単な実験を自ら実施し、科学における実験の意義と方法についての理解を深めます。すなわち、心理の数量化・客観化の方法、人間心理の一般的傾向の検証方法、また、仮説と検証という科学の基本方法を学びます。個別事例の診断技術の背景には、このような方法で研究・調査されてきた「人間一般」についてのデータの蓄積があります。医学において、正常な身体の状態を知らずに身体の異常を診断できないのと同じです。既成の診断技術を無批判に受け入れる技術屋ではなく、その診断指針の背景理論とデータを理解できる心理臨床家となるためにも本講は重要な学習といえます。		
達成目標	「関心・意欲・態度」 (1)心理学の学術論文を読み、古典的な研究例を追試する。 「思考・判断」 (1)実験を通して実証的な考え方を学ぶ。 「技能・表現」 (1)データ集計・統計的分析を行い、科学論文を作成する。 「知識・理解」 (1)心理測定、仮説検証について説明できる。		
授業計画			
1	ガイダンスとレポート作成練習(1):受講の注意点の確認、レポートの書き方の概説、レポート作成練習用課題の実施(「目的」、「方法」部分の完成)		
2	レポート作成練習(2):レポート作成練習用課題の実施(「結果」、「考察」部分の完成)		
3	触2点閾の測定(1):閾値とは「感じない」と「感じる」との境目にあたる刺激の値を指し、感覚の鋭さの程度(感度)を示します。この実習では触2点閾を測定し、閾値の測定法を学びます。この回は実験の意義と実験方法を解説します。		
4	触2点閾の測定(2):実験を実施し、集計作業を行います。		
5	触2点閾の測定(3):データの整理を行い、分析方法について解説します。		
6	触2点閾の測定(4):レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
7	系列位置効果(1):記銘材料リストの記銘と想起を行い、リストの系列位置によって想起に違いが生じるかどうかを検討します。この実験は、記憶の仕組みを考える上で歴史的にも非常に重要な実験です。その意義を理解し、実際に実験で確かめてみましょう。この回は記憶の現象および実験方法の解説を行います。		
8	系列位置効果(2):実験を実施し、集計作業を行います。		
9	系列位置効果(3):データの整理を行い、分析方法について解説します。		
10	系列位置効果(4):レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
11	知覚運動学習(1):この実験では、鏡映描写の課題を用いて学習の転移について考えていきます。この回は実験の意義と実験方法を解説します。		
12	知覚運動学習(2):実験を実施し、集計作業を行います。		
13	知覚運動学習(3):データの整理を行い、分析方法について解説します。		
14	知覚運動学習(4):レポート作成指導と個別質問受付を行います。		
15	実習のまとめ:添削したレポートを例に、改善点について確認します。		
授業形態/具体的な内容	3つの実験を4週ずつ順に行います。順番は班によって異なります。実習の報告書としてレポートを提出し、添削を受け、修正を繰り返しながら、科学論文を書く力を養います。		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
教科書は指定せず、教員が用意したレジュメに基づいて授業をすすめます。			
参考書	心理学実験指導研究会(1985). 実験とテスト=心理学の基礎 培風館		
成績評価の基準・方法	授業・実験への参加度、態度、レポートによって総合的に評価します。すべての課題でレポートを提出しなければ単位の取得は認めません。不正行為(他人のレポートを写す行為など)の疑いがある場合は、単位を認定しません。		
留意点	授業中は、実験の実施に適した環境づくりを各自心がけてください。		
準備学習	実験心理学、心理学研究法に関する書籍を読んでおくこと。		
備考		No.	PY322004